

「住みよい地球」全国小学生作文コンクール 2019 特別賞

未来を変えていくために

鹿児島県知名町立下平川小学校五年 竿 りり

「かりかりかり。」

朝日の昇ったばかりのウジジ浜は、やどかりの足音でいつもにぎやかだ。わたしは、やどかりたちを踏まないように気をつけながら浜にたどりついた漂着ごみを拾う。環境に関する作文を書いたことがきっかけで拾い始め今年で三年目の夏がやってきた。

ごみ拾いを始めてから、私の生活は大きく変化した。朝が苦手だったわたしは、ゴミ拾いをするために、早起きになった。それに、ごみ拾いの仕方やしてみたいことについて、妹たちとたくさん話をするようになった。家族で係を分担し、おたがいにできることを考えるようにもなった。

ごみ拾いを続けてきたが、ごみはなかなか無くならない。それどころか、増えてきているようにも思える。つぶれた空のペットボトル、白いビニールぶくろ、プラスチックのかけら、発ぼうスチロールなど、数え切れないほどの種類がある。また、そのほとんどは、中国や韓国、フィリピンなど外国のごみだ。

これらのゴミが増え続ける原因を、自分なりに考えてみた。わたしは、宿泊学習で昔の人たちと水について学習した。わたしの住んでいる沖永良部島には、その多くが石灰岩でできているため、水はとても貴重だったそう。家で使う水は、暗川に汲みに行き、頭に乘せて毎日運んだそう。子どもたちも進んで手伝ったという。それに比べて、現在の生活はどうだろう。じゃ口をひねればすぐにきれいな水が飲めるし、ペットボトルの水を買うこともできる。水だけではない。おそらく多くの面で、昔よりも生活が便利になり、使い捨てが当たり前の暮らし方になった。この暮らし方の変化が、ごみが増えている原因の一つなのだと思う。

てば、ごみを増やさないためにはどうしたらよいのだろうか。ごみを意識し始めてから我が家の暮らし方にも少しずつ変化が現れてきた。まずペットボトル飲料をできるかぎり買わないようになった。飲み物を買うときは、自然に戻る素材の紙パックや、リサイクルができるびん容器を選ぶようになった。そして、できるだけ水筒に入れて持ち歩くようにもなった。また、買い物のときに、エコバックを使うことを心がけるようになった。

変化したのは暮らし方だけではない。ごみを拾い始めた一年目は、あまりにもおおいごみを見て悲しくなったりうんざりしたりした。でも、今はちがう。ごみが増える

と、やる気に火がつき、手の届くところにごみがあることをラッキーだと思えるようになった。

わたしたちの生活は、昔に比べて便利になった。でも、ものに対するありがたさや、大切にすゝる気持ちを忘れてはいけない。ごみをへらし、未来を変えていくためには、まず、わたしたち人間が自分の暮らし方を見直し、意識を変えていくことが必要なのだと思う。